

【南牧村】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

令和 6 年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果によれば、本村の現状は、県内全体の平均と比べても高い推移となっている。

校内では、児童生徒の欠席や遅刻、早退連絡の受け付けや集計作業、教職員間の情報共有や連絡、授業研究会や校内研修等での協議において完全デジタル化となっており、職員会議資料や作成教材、施設情報の予約状況の共有についても半分以上の割合でデジタル化が行われている。

一方で、保護者への便りや配布物の配信、保護者からの提出物の受け付け等のデジタル化は半分未満となっており、児童生徒への調査やアンケートの実施、デジタル教材を用いた課題等の実施もデジタル化の割合は少ない状況である。

また、日常的な業務に対して FAX は使用していないが押印の廃止は完全には進んでおらず、校務支援システムへの名簿情報への入力も紙のデータを参照しながら手入力しているなど、依然として紙ベースでの業務が根強く残っている。

2. 校務 DX を推進するための課題解決策

本村では、令和 6 年度よりクラウド統合型校務支援システムを導入し、情報の一元化とクラウド環境を活用した校務 DX の推進に取り組んでおり、自己点検の結果からも一定の成果を上げているものと考えられるが、クラウドツールを活用した関係者間の連絡調整、押印の見直し、不合理な手入力作業等、一部で課題も抱えていることから、より一層校務 DX 化に取り組んでいく必要がある。

具体的には、現在活用している汎用クラウドツール「GoogleWorkspace」の機能の有効的な利用方法を再検討するとともに、他の有用なクラウドツールや学校と関係者間をつなぐアプリの導入の検討、さらに現校務支援システムの連絡機能の積極的な活用を促していく。

また、書類への押印の見直しを行うことで校務の効率化とペーパーレス化を促進させ、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に向けた各種データ連携も検討していく。

3. 次世代校務 DX 環境の整備について

本村ではクラウド統合型校務支援システムを導入済みであり、次世代校務 DX 環境については一定の整備が行われていると考えられるが、現在、県域共同調達での学校デジタル基盤（校務支援システムと汎用クラウドツールによる教育データの利活用）の導入が検討されているところであり、本村についても参画により得られるメリットなど必要な情報収集を行い、教職員の負担軽減を図っていく。